

発見! 全国の **ほ**っとポイント世界目線で
地域医療を支える大分県中津市 **川** 川島整形外科病院

川島整形外科病院理事長 **川島真人**先生 (左から3番目)
スタッフの皆さんと共に、潜水士の骨壊死の研究に使われる大型高気圧酸素治療装置の前で。

かわしま・まひと 1944年大分県中津市生まれ。東京医科歯科大学医学部卒業。医学博士。日本整形外科学会専門医、同リウマチ医。日本高気圧環境・潜水医学会代表理事など。

地域医療をより高い
水準で行うために

蘭学の里として知られ、『解体新書』の著者である中津藩医・前野良沢や福澤諭吉など、多くの医師や学者を輩出してきた大分県中津市に川島整形外科病院はあります。

1981年の開業以来、より高い水準で地域医療を行っていくために、医師たちの

「生涯教育」にこだわってきたという理事長の川島真人先生。「整形外科の専門病院として、各分野のスペシャリストが診療に当たっています」。

技術的にも学術的にも国際水準の医療を維持するため、内外の学会での発表に力を入れる他、院内でも臨床分析の報告や各分野の研修、研究会を開催。さらに、地域全体の医療水準の向上を目的に、2カ月に1回、日本のトップレベルの教授や医師を招き、地域の医療従事者と共に勉強会を行っています。また、大分県で一般病院として最初に日本医療機能評価機構の認定を受け、10年には3度目の更新認定を受けました。

こうした中、さらなる向上を目指し、開業33年目を迎えた13年11月には介護老人保健施設、通所リハビリ（デイケア）、訪問看護ステーションなどを併設した新病院をオープンさせました。

「新たに完全無菌手術室を



川島先生は医療のみならず、地域の文化や歴史を研究する「マンダラゲの会」を主宰するなど、多岐にわたる地域の文化的活動にも惜しみなく取り組む。

3部屋設置し、新システムを導入しました。手術の様子を医局カンファレンスにてリアルタイムで確認することができま

川島先生は、九州労災病院に勤務していた72年より、当時未開拓分野でありながら患者が絶えなかった潜水士の骨壊死の研究に先駆けて取り組み、開業後も多忙の中で臨床と研究を両立させてきました。「夜11時まで手術をして、それから骨壊死の研究を行うという日々が続きました」。

こうした果敢な取り組みにより、75年に日本で初めて潜水士の骨壊死を労災認定取得へと導きました。また、研究成果は国際学会などでも

潜水士の骨壊死の研究で
世界的に活躍



(左)新病院は「30年後を見越した建設」という川島先生の言葉通り、冷暖房に必要なエネルギーは太陽光発電や天然ガス、地下熱によって100%自給。給食による食べ残しを有機肥料に換えるシステムを導入するなど、環境への徹底した配慮がなされている。(上)川島先生の座右の銘、「水滴は岩をも穿つ」のモニュメント。

高く評価されています。

13年には日本高気圧環境・潜水医学会代表理事に就任。日米宇宙・潜水・高気圧環境医学合同学会を主宰する他、アジア太平洋潜水高気圧環境医学副理事長を務め、日本の潜水医学界をけん引しています。

「真のインターナショナルリズムは、日本独自のものを掘り下げ、その底にインターナショナルな水脈を見出すもの」と、川島先生。

世界と地域。双方の医療貢献に尽力する先生の姿勢がその言葉に表れていました。